

上川淵 地下 マップ

*本市刊行の発掘調査報告書は、奈良文化財研究所「全国遺跡報告総覧」からダウンロードすることができます。



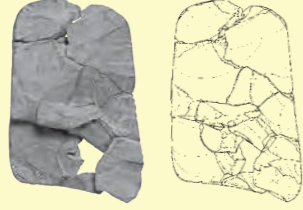
◆縄文人の活動あと

西善尺司遺跡では縄文人が石器を製作した作業の跡が見つかりました。石の剥片（はくへん）を接合すると、3つのまとまりに復元されました。また、山王若宮V遺跡では、上川淵地区で唯一の縄文時代の住居跡が見つっています。前橋台地における縄文人の活動を知るうえで貴重な発見となりました。

西善尺司遺跡 / 群馬県提供



石器製作の作業あと



剥片を接合したもの



縄文時代中期の住居 山王若宮V遺跡

◆弥生のムラ

3世紀後半に噴火した浅間山の降下物（As-C 軽石）に覆われた水田跡と弥生時代後期の住居が見つかりました。住居の存在から、水田は弥生時代から開かれていた可能性もあります。



As-C 下水田 群馬県提供



【参考】弥生のムラの模型 群馬県立歴史博物館提供

◆調査で発見された屋敷跡



姿を現した中世の屋敷跡（東から）

◆5前田遺跡

堀を含めて一辺が48m前後の正方形の屋敷跡が見つかりました。堀跡から出土した遺物から、屋敷は14世紀に造成され、15世紀代も存在していたことが分かりました。この間、堀の埋め戻しや新たな掘削により、3度、構造を変えています。 写真提供 / 群馬県

◆地鎮の祈りを込めて



文字が墨書された礎石

寺院があったと伝えられている場所で、室町時代の橋脚跡の下から、墨書礎石が見つかりました。全面に文字が書かれていますが、内容の解読はできていません。寺院遺跡の発掘により、地鎮に関する遺物が出土する事例があり、この墨書礎石も架橋に関わる地鎮祭祀に伴い埋められた可能性があります。 写真提供 / 群馬県

◆7中内村前遺跡

◆ドローン空影 9西善福録遺跡

西善町で見つかった、1108年噴火の浅間山火山灰に覆われた平安時代の水田遺跡を空からご覧いただけます。

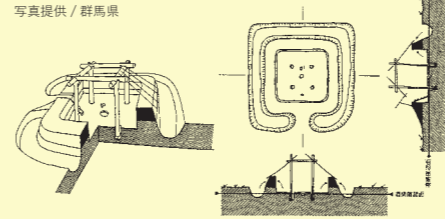


◆古墳時代になって突然出現した「周溝をもつ建物」 6中内村前遺跡

この建物は、弥生時代から古墳時代への移行期に建てられたもので、それ以前は群馬県において見られないものです。北陸地方や南関東地域の特徴を持つ土器が出土していることから、これらの地域から建築の工法も伝えられたのでしょうか。



南側に入口がある（北から）



推定復元（群馬県埋蔵文化財調査事業「中内村前遺跡」）

◆古墳人の髪型 8朝倉工業団地遺跡群No.6

男子人物埴輪の美豆良（みずら）が見つかりました。髪の毛を耳の前あたりでひもでくくって留めた髪型で、下げみずらは、身分の高い男性のものでした。



出土した美豆良 【参考】帽子をかぶる男子 写真提供 / 群馬県立歴史博物館

◆古墳時代前期の墓と祭祀

微高地上にひしめきあう14基の方形周溝墓とそこに供えられた祭祀用の土器が見つかりました。この墓が造られた時期は、県内最古の前方後方墳・後円墳である八幡山古墳・前橋天神山古墳にわずかに先行します。この地域一帯は、集落の出現から一定期間が経過したのち、社会基盤が成立し、古墳築造という大事業を成し遂げたと理解することができます。



方形周溝墓群



墓に供えられた土器



【参考】祭祀の様子

◆東日本を代表する前期古墳



調査時の前橋天神山古墳 奥には八幡山古墳が見える

昭和43年、住宅団地造成により消滅の危機に瀕していた前橋天神山古墳の発掘調査が行われました。この古墳は、4世紀前半に造られた全長129mの前方後円墳で、八幡山古墳の被葬者の地位を受け継いだ有力者のものと考えられます。粘土槨（ねんどかく）からは、ヤマト王権との結び付きを示す2面の三角縁神獣鏡を含む銅鏡5面、銅鏃（どうぞく）、鉄製大刀（たち）・剣・農耕具類など、豊富な副葬品が出土しました。粘土槨を含む後円部の一部のみが現地保存され、主な出土品は東京国立博物館に収蔵されています。



この地域の有力者を埋葬した粘土槨（左）と銅鏡の出土状況（右）



◆古墳時代末期の居館

前方後円墳が造られなくなる7世紀代の掘立柱建物（ほったてばしらたてもの）跡、竪穴建物跡、溝跡などが見つかりました。平行する2条の溝区画内に溝跡と同じ向きの掘立柱建物跡が配置されており、「居館跡」の可能性が想定されます。「朝倉君」のような有力者の館の一部だったのでしょうか。

◆9広瀬木ノ宮遺跡



2条の溝と建物跡 国立歴史民俗博物館蔵



【参考】豪族居館の模型

